

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	Academic Spoken English II		
英文授業科目名	Academic Spoken English II		
開講年度	2007年度	開講年次	1年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 電子工学科 知能機械工学科 システム工学科		
担当教官名	西村 芳康		
居室	東1 - 714		

公開E-Mail	授業関連Webページ
eigokyoumu@bunka.uec.ac.jp	<a href="http://www.office-m2.co.jp/denki/">http://www.office-m2.co.jp/denki/</a>

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>1年生 火1, 2限</p> <p>基礎レベルのacademic spoken Englishに使用される英語を理解し、話せるようになることを目標とする。授業では、目標達成のために言語理論と学習理論を統合したさまざまな教授法を利用する。学生は、積極的に授業に参加することを通して、話し言葉としての英語を使用する能力を伸ばすことが期待される。(学習要覧から)</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
とくになし。

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
Academic Spoken English I

<b>【教科書等】</b>
<p>前・後期(継続使用)</p> <p>「インタビューで学ぶ世界の英語」(Miles Craven著、成美堂)</p> <p>(World Interviews: Improving listening and speaking skills)</p> <p>目次(一部)</p> <p>Unit 1 Vacations</p> <p>Unit 2 Growing Up</p> <p>Unit 3 Entertainment</p>

## 電気通信大学 平成19年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

(注意：この授業は前期と密接に関連するので、継続して履修するのが望ましい)

具体的な目的は、英語を聴く力・話す力の向上を図るために基本的な表現や習得方法を学ぶ。英文インタビューを基にした様々な種類の設問を解くことを通して、英語を聴いたり話したりする訓練を行なう。話し手は世界各国の若者なので異文化理解を深めることにも役立つだろう。テキストは24課構成で、授業1回で1課を扱う。毎回、関連プリントを配付する。前期での達成度を見て、学習の内容や分量を変更する予定。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

#### 評価方法

- (1) 期末試験(受験には授業回数の3分の2の出席が必要条件)
- (2) 出席状況(妥当な理由のない欠席・遅刻は減点評価をすることがある)
- (3) 授業中の態度や、発表の仕方
- (4) 臨時に小テストする場合がある。

#### 評価基準

以下の2つの基準に基づく。

(大学作成)

100～90点は秀、89～80点は優、79～70点は良、69～60点は可、60点未満は不可。

平成16年度以降は「評価平均」が導入されて、不可や履修放棄は0点として計算に入れられるので注意すること。

(英語教室作成)

合格者の20(+/-10)%は秀と優、合格者の40(+/-10)%は良、合格者の40(+/-)%は可、それ以外は不可。

### 【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話やメールなどで事前に予約を取ること。

### 【学生へのメッセージ】

1. 英語に触れるひとときを、生活の中に組み込むことが肝要です。
2. 実用的な音声面の英語学習には、NHKラジオ・テレビの語学番組がお勧め。

### 【その他】